

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－33

学校名・団体名	神栖市立波崎小学校
HPアドレス	http://www.sopia.or.jp/hasaki-el/
コース	学校支援
活動・研究の テーマ	自ら考え判断し危険に適切に対応する力を育む 防災教育
<p>〈活動・研究の意義目的〉</p> <p>本年度は、防災マップの改訂や各教科、領域における防災教育の充実、避難所生活体験の実施、波崎一中学区地域住民との合同避難訓練などを通して、自然災害について理解を深め、自らの安全を確保し、適切な判断や行動選択ができるようにすることに取り組んできた。</p> <p>○ 本校の防災教育の目標</p> <ol style="list-style-type: none">① 災害時における危険を認識し、日常の備えを行うとともに、状況に応じた的確な判断の下、自らの命・安全を確保するための行動ができる。 (危険予測・主体的な行動)② 自然災害発生のメカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解し、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 (知識、思考・判断)③ 災害発生時や事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができる。 (災害時の人とのかかわり)	

1 防災に係る道徳の授業公開

- ① 対象者 第1学年～第6学年
- ② 教科領域 道徳
- ③ 時期 7月3日(金)
- ④ 内容

学期末の授業参観で全学級において道徳の授業を公開し、防災に関する資料や防災に生かされる価値項目を扱った授業を展開する。この授業を通して、児童や保護者の防災に関する意識を高めるようにする。

⑤ 成果

防災に関する道徳の授業を通し、児童の発達段階に応じた防災における道徳的な心情や実践意欲を育むことができた。

海と川に挟まれた本校の特色ある教育活動について公開することで、保護者の防災に関する意識を高めることができた。

2 避難所生活体験

- ① 対象 第4学年(原則全員参加)
- ② 教科 教育課程外の活動
- ③ 時期 7月27日, 28日
- ④ 内容

教室で避難所生活をする上で必要なパーティションを作った。また、避難所生活に必要なサバイバル飯や、灯り作り、応急処置体験などを行った。

⑤ 成果

児童は、避難所生活体験における様々な体験活動を通して、防災に関連する知識や判断力を高めることができた。実際に生活スペースを作り、そこで生活することで避難所生活での注意すべき点について気付くことができた。

3 防災マップの改訂

- ① 対象 第4学年
- ② 教科 総合的な学習の時間
- ③ 時期 1月～3月
- ④ 内容

学区内において津波による浸水想定場所を避け、学校まで避難するときに注意する場所や注意することなどを地域の行政委員(区長)や保護者とともに歩いて調べる。地区ごとに調べたことを地図に書き込み、防災マップとしてまとめた。

⑤ 成果

調べたことを、学習発表会で全校児童や保護者に説明し、地震が起こり津波が襲ってきたときに、安全に避難所まで移動する際の留意点などについて理解を深めることができた。

4 波崎一中学区幼・小・中避難訓練

- ① 対象 全校児童
- ② 教科 学校行事
- ③ 時期 9月14日
- ④ 目的 避難訓練: 災害時避難の基本的行動を知り、安全に避難できる能力と態度を身につける。
引き渡し訓練: 保護者へ安全に引き渡すことができるような方法を確立させ、ルールに従って滞りなく避難できるようにする。

⑤ 成果

津波警報発令時に、交通状況なども勘案しながら波崎一中学区のそれぞれの保護者へ児童の引き渡しを円滑に行うことができた。また、隣接する幼稚園との連携を深め、校内での引き渡し場所や車の流れなどについても、課題を把握することができた。